

ケアラー支援に必要と思われる取組

資料2

前回会議での意見を支援の方向性に位置づけ、ケアラー支援に必要と思われる取組を例示しましたので、このほか必要と思われる取組や効果的な取組方法、取組の進め方、課題などについて御意見をいただき、道のケアラー支援の取組の参考としたいと思います。

検討の方向性と前回会議での主なご意見	方向性の整理	必要と思われる取組
<p>◇検討の方向性 <u>理解促進・普及啓発</u>が必要ではないか</p> <p>◇前回会議での主なご意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの住民等に「見える」「わかる」形で知ってもらう ・家族介護が当たり前といった意識改善の必要性 ・相談先（窓口）の更なる周知 ・支援の必要性を広く住民や事業者に知ってもらわないと介護離職は防げない 	<p>⇒</p> <p>ケアラー本人の自覚や ケアラーに対する 道民等の理解の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○広報啓発を通じた道民の方々の意識醸成 ○行政及び学校等へのケアラー支援の必要性の周知 ○ケアを必要としている方とケアラー本人への意識啓発 ○理解促進のための行政や関係機関、支援団体等による相互の連携協力
<p>◇検討の方向性 <u>人材育成・支援体制の構築</u>が必要ではないか</p> <p>◇前回会議での主なご意見 〈早期発見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援につながっていない潜在的なケースも念頭に施策を検討 ・身近な相談窓口（の存在や対応）が一番大事 ・SSWは派遣型が多く連絡待ちになりがち、教員の理解と更なる事業の活用が必要 ・SSWの配置増により能動的にヤングケアラーを発見できる制度が必要 <p>〈支援資源へのつなぎと活用〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働いている場合は緊急時の対応が難しいので支援が必要 ・支援につながっていても苦勞を抱えているケースがあるので活用方法も含め支援資源が課題 ・発見した人が相談窓口へつなげやすい仕組みづくりが必要 ・ケアラー本人と要ケア者への支援はセットで行う視点が重要 ・子どもがケアしている対象が、大人かきょうだいかで必要な支援は異なる 	<p>⇒</p> <p>ケアラーを早期に発見し、 ケアラーとその家族等 を適切な支援につなぐ ための相談支援体制 づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○関係機関相互の情報共有による早期発見 ○適切な支援につなげるための包括的な相談支援体制の構築 ○相談に応じる人材の育成 ○福祉サービスの利用促進 ○学校と関係機関の連携体制の構築
<p>◇検討の方向性 (地域における) <u>関係機関相互の情報共有</u>が必要ではないか</p> <p>◇前回会議での主なご意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発見した周りの人が関係機関や相談窓口につなげられる地域づくりが必要 ・介護を行う立場にならないとわからないことが多いので、学校で介護を学ぶ機会を設けることも必要 	<p>⇒</p> <p>ケアラーとその家族等 が安心して生活できる 地域づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○地域における情報共有のためのネットワークづくり ○地域住民による助け合いの推進